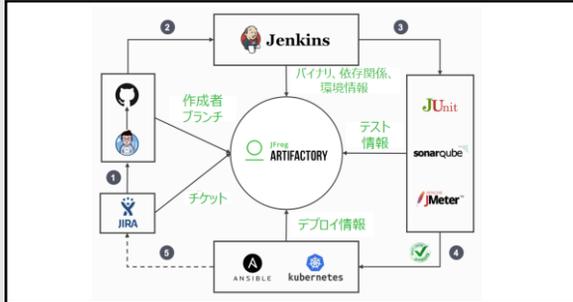


アーティファクト管理/OSS脆弱性・ライセンス管理・SBOM/CICD/配布/組織モニタリング

アーティファクト管理でアジャイルな開発に対応しやすくなり
仕向先ごとの開発効率、セキュリティ対応が向上します
JFrogは、「ソフトウェアのトヨタ生産方式」の実現を支援します

ソフトウェア生産工程の情報をメタデータとして管理

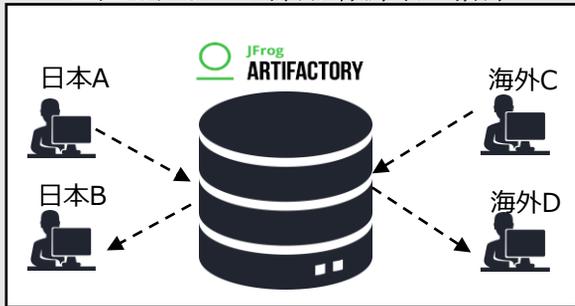


課題1:ソフトウェア成果物の工程情報管理が煩雑

日々生産しているソフトウェアの部品、もしくは成果物は、いつ、だれが、どのように、なんのツールで作られているか管理できていない。また、どんどん膨らんでいくソフトウェアの依存関係が複雑で管理不能になる

⇒JFrog Artifactoryでバイナリをメタデータと一緒に管理。ビルド情報以外にもGitのバージョンやテスト状況などのメタデータも追加で持たせることが可能です

グローバル、あるいは異拠点開発で生産されるソフト部品・成果物の倉庫

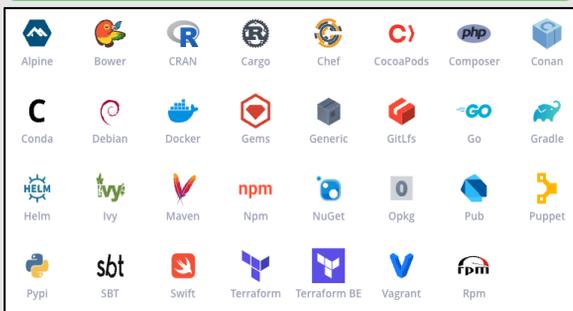


課題2:グローバルソフトウェア開発でバイナリの共有でロス時間、コミュニケーションの問題が発生

海外との共同開発で、常に最新バージョンのバイナリの共有でアップロード・ダウンロードの時間が発生している。また、海外拠点のバイナリを利用し、インテグレーションする際、ソフト資産の生産工程が分からず、開発の効率低下につながる

⇒それぞれの拠点サーバーにJFrog Artifactoryをインストールし、異なる環境のファイル同期を実現。また、アーティファクトを管理することで、メタデータでバイナリの検索、安全性を確認できます

30種類以上のバイナリを一括管理



課題3:増えてきている言語パッケージの管理

これまでC/C++言語中心の世界だったが、近年コネクテッドカーの開発などで、Docker、PyPi、Goなど利用が増えてきている。開発現場では、言語パッケージによってバラバラに個別のリポジトリが立ち、管理が煩雑となっている

⇒JFrog ArtifactoryでSingle Source of Truth*を実現。誰でもアクセスでき、唯一信頼できるソフトウェア部品・成果物の倉庫となります

* Single Source of Truth : SSOT : 信頼できる唯一の情報源

Fortune100のうち、88%の企業がJFrogをご利用



お客様のご事情に
合わせ2種類の
サーバーライセンス
形態をご用意

クラウド版(AWS,GCP,Azure対応)
無料のアップデートを提供し稼働時間を保証するJFrogにより、インフラストラクチャを管理、維持、拡張し、サーバーバックアップを自動化することができます。

セルフホスト版
内部サーバー上でインストール、管理、保守を行うか、プライベートクラウドでセルフホストします。